

(知的) 算数科学習指導案

1. 単元名 正しく数を数え、計算しよう

2. 指導の立場

(1) 単元について

本単元は、生活単元学習「心のとも運動」の数学的活動を算数の単元と合わせて行っている。商品の注文数を集計したり、注文を受けて集金をしたり、商品を袋詰めしたりなど、児童がこれまで教科書で学んできた内容が実際の場面で生かせるような場を設定した。1～3年生による注文チームは、「10までのかず」「20までのかず」で学んだことを生かし、商品の数を注文票から読み取り、商品ごとに数を正しく数えることができるようにしたい。商品が届いた際には、注文者ごとに商品を正しく数えて袋詰めする作業を行う予定をしている。集金チームは、「4けたの数」で学んだことを生かし、5年生は、お金を使って4桁までの数を位ごとに数を捉え、数の概念について理解できるようにしたい。また6年生は、お金を10個のまとまりで数えることで計算をしやすくなることに気づき、4桁までの数の計算を正しくできるようにしたい。算数の学習に対して生活とのつながりを感じることが少ないため、なかなか興味をもって学習に取り組むことが難しいのが現状である。本単元のように他教科と関連付けて学習を進めることで、算数の学びと生活とのつながりを実感させたい。

(2) 本単元で働かせる数学的な見方・考え方

- ・10までの数、10より大きい数を正しく数えること。
- ・まとまりごとに数えることで、数を簡単に表すことができることが分かること。
- ・数のまとまりに注目して、三位数、四位数の数を位ごとに捉えること。

(3) 本時について

本時は、「心のとも運動」の集計作業に向けて練習をする時間の2回目で、作業のやり方を一通り覚えてきたうえで、それぞれの役割を繰り返し行う時間である。実際の注文を受けて作業をする際に自信をもって正しく作業を進められるように、何度か繰り返し練習する機会が必要であると考え、このような時間を設定した。注文票やお金の模型を使用し、実際に注文があった場面となるべく同じような状況で行えるような場を設定を行う。練習後は、本番の注文票をもとに商品やお金を正確に数えたり、値段を正しく計算したりすることが大切であることを児童が気付けるようにしたい。

(4) 本時の目標・支援の手立て

児童	本時のねらい	支援の手立て
		<ul style="list-style-type: none"> ・自分で数えた分が分かるように1人1人に違う色のシールを用意する。 ・黒板の表は振り返りの際に数を分かりやすく数えられるように、5や10の区切りをつけたものを使用する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・位ごとに正しくお金が分けられるように、位ごとに区切った箱を用意する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・計算に誤りがないか、相互で点検できるように電卓を用意する。 ・お金を10個のまとまりで分けられる位ボードを用意する。

3. 研究との関わり

自ら学び合い、考えを深める子の育成
～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して～

研究内容1 自己調整しながら学ぶことを促す単元構成

【本時に目指す「自己調整しながら学ぶ」姿】

それぞれが課題に向かって個人で学習をするとともに、個人で学習したことが全体で1つの成果として表れることで学びのつながりを感じる姿。

【仮説】

全体の活動の見通しをもち、学習環境や活動を毎時間柔軟に調整できるようにすることで、毎時間の活動とのつながりを感じて活動に臨むことができ、少しずつ児童の力を発揮できるようになるだろう。

【達成のための手立て】

- ①単元の見通しがもてるように計画表を掲示する。
- ②学習の流れが把握できる教室の環境設定をする。
- ③学習のつながりが感じられるように、児童が毎時間のめあてを立てて全体で振り返りをする学習の流れをパターン化する。

4. 単元指導計画

時	単元の見通し
1	「心のともし運動」ではどんな取り組みをするのか知る。 (生活単元学習)
2	封筒に注文票を貼る作業をする。 (生活単元学習)
3	注文票を受けたときに、どのように作業を行うか役割を確認する。また、練習をする。 (算数)
4	模擬注文票を使って、数を正しく数えたり、正しく計算したりする練習をする。 (算数)
5 本時	注文票を見て、数を数えたり、計算したりする。 (算数)
6	商品の袋詰めをする。 (生活単元学習)
7	「心のともし運動」の振り返りをする。 (生活単元学習)
8	
9	

5. 本時の目標 (5/9)

- <1～3年生>個人で注文票から商品の数を正しく数える活動を通して、5や10のまとまりを使って大きい数を数えることができる。
- <5年生>注文票からお金を位ごとに分ける活動を通して、位ごとに数を捉えて正しく数を言うことができる。
- <6年生>位ごとに分けられたお金をまとまりごとに集めて計算する活動を通して、大きい数のお金の計算ができる。

6. 本時の展開

	ねらい	学習活動	研究との関わり						
つかむ	前時の振り返りから、本時の目標を立てることができる。	<p>1. 前時を振り返り、本時の学習の見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回は練習の2回目だけど、前回よりもスムーズにできるかな。 ・今日はいくつがんばろうかな。 <p>2. 本時の課題を確かめる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>正しく数を数えたり、計算したりしよう。</p> </div> <p>3. 本時の活動を行う</p>	<p><研究内容③></p> <p>前時の振り返りシートや集金額を確認できるような表を用意することで、学習の積み重なりが感じられるようにする。</p> <p><研究内容①></p> <p>単元の流れを提示し、流れの見通しをもって活動できるようにする。</p> <p><研究内容①></p> <p>一人一人が行う作業量は児童自身が選択できるようにすることで、自分で調整しながら学ぶことができるようにする。</p> <p><研究内容②></p> <p>チームごとの振り返りが視覚的に分かるように表を用意することで、互いが関わり合っていることが感じられるようにする。</p>						
ふかめる	それぞれの意欲や能力に合わせた活動を行うことで、どの児童も達成感を味わうことができる。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>【1～3年生】</th> <th>【5年生】</th> <th>【6年生】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p><順序></p> <p>①注文票を見て、黒板の表に書かれた文房具ごとに数をシールで貼る。</p> <p>②シールが貼れたら、机1に封筒を置く。</p> <p>③ホワイトボードに、できたよシールを貼る。</p> <p>④自分の机に戻って、次の注文票に取り掛かる。</p> </td> <td> <p><順序></p> <p>①封筒からお金を出す。</p> <p>②お金を位ごとに分ける。</p> <p>③お金と封筒に書いてある金額が合っているか確認する。</p> <p>④封筒とお金を机2に置く。</p> <p>⑤自分が座っている机に注文票を持ってきて、次の作業を進める。</p> </td> <td> <p><順序></p> <p>①机2から封筒とお金を自分たちの机に持ってくる。</p> <p>②お金を位ごとに10のまとまりをつくって並べる。</p> <p>③封筒を見て、計算シートに書いて計算する。</p> <p>④計算が合っているか電卓で確認する。</p> <p>⑤次の注文票の計算作業を進める。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	【1～3年生】	【5年生】	【6年生】	<p><順序></p> <p>①注文票を見て、黒板の表に書かれた文房具ごとに数をシールで貼る。</p> <p>②シールが貼れたら、机1に封筒を置く。</p> <p>③ホワイトボードに、できたよシールを貼る。</p> <p>④自分の机に戻って、次の注文票に取り掛かる。</p>	<p><順序></p> <p>①封筒からお金を出す。</p> <p>②お金を位ごとに分ける。</p> <p>③お金と封筒に書いてある金額が合っているか確認する。</p> <p>④封筒とお金を机2に置く。</p> <p>⑤自分が座っている机に注文票を持ってきて、次の作業を進める。</p>	<p><順序></p> <p>①机2から封筒とお金を自分たちの机に持ってくる。</p> <p>②お金を位ごとに10のまとまりをつくって並べる。</p> <p>③封筒を見て、計算シートに書いて計算する。</p> <p>④計算が合っているか電卓で確認する。</p> <p>⑤次の注文票の計算作業を進める。</p>	
【1～3年生】	【5年生】	【6年生】							
<p><順序></p> <p>①注文票を見て、黒板の表に書かれた文房具ごとに数をシールで貼る。</p> <p>②シールが貼れたら、机1に封筒を置く。</p> <p>③ホワイトボードに、できたよシールを貼る。</p> <p>④自分の机に戻って、次の注文票に取り掛かる。</p>	<p><順序></p> <p>①封筒からお金を出す。</p> <p>②お金を位ごとに分ける。</p> <p>③お金と封筒に書いてある金額が合っているか確認する。</p> <p>④封筒とお金を机2に置く。</p> <p>⑤自分が座っている机に注文票を持ってきて、次の作業を進める。</p>	<p><順序></p> <p>①机2から封筒とお金を自分たちの机に持ってくる。</p> <p>②お金を位ごとに10のまとまりをつくって並べる。</p> <p>③封筒を見て、計算シートに書いて計算する。</p> <p>④計算が合っているか電卓で確認する。</p> <p>⑤次の注文票の計算作業を進める。</p>							
まとめる	互いのチームの頑張りを認めることができる。	<p>4. 全員で活動を振り返る</p> <p><注文チーム【1～3年生】></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぜんぶで〇人注文がありました。 ・えんぴつHBの注文は、〇個でした。 ・一番多い注文は、〇個の～です。 <p><集金チーム【5・6年生】></p> <ul style="list-style-type: none"> ・集金チームが今日集めたお金は、〇円でした。 <p>5. 次時への意欲につなげる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スラスラできたから、本番も正しくできるように頑張ろう。 ・もう少しスラスラできるようにもう少し練習したいな。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】(知・技)</p> <p>1～3年生：注文票を見て、正しく数えてシールを貼る。</p> <p>5年生：お金を位ごとに分けて千の位までの数を正しく言う。</p> <p>6年生：大きい数の計算を間違いがないように丁寧に言う。</p> </div>						

特別支援学級 国語科学習指導案

1. 単元名 詩の楽しみ方を見つけよう
 教材名 1年生 ことばのたいそう「なりきって よもう」
 2、4、6年生「詩の楽しみ方を見つけよう」

2. 指導の立場

(1) 単元について

本単元は、2年生から6年生の学期の初めに位置付けられており、詩の多様な楽しみ方に触れる単元である。教科書の詩を題材に、詩の工夫やおもしろさなど、詩を楽しく鑑賞するための視点を学び、そこで学んだことを生かして、詩の音読や朗読を楽しんだり、お気に入りの詩を選んで仲間を紹介したりする活動に取り組んでいく。小学校生活を通して様々な詩に触れた経験や、そこで培った力は、今後の生活の中で、詩を読んで楽しんだり、詩の創作をしたりするための基礎的な力となり、言葉の世界を味わう生活を創り出し、生活を豊かなものにしていく。自ら言葉を求め豊かな言語生活を創造していくためにも、この単元を通して多様な詩に触れ、様々な詩の楽しみ方に触れさせていきたい。

(2) 本単元で働かせる国語的な見方・考え方

- ・詩の中の言葉から、リズムや言葉の使い方等、詩のおもしろさや工夫を見つけること。
- ・詩の音読や朗読、お気に入りの詩を紹介する活動を通して伝え合う力を高めること。

(3) 本時について

本時は、「詩を楽しむ」という共通のテーマのもとに、自分の好きな詩をいろいろな読み方で試したり、自分の決めたテーマに沿って詩を探したり、集めたりするなど、楽しみながら詩に触れる時間である。異学年集団がそれぞれの学年の目標を生かしながら、いろいろな詩の楽しみ方を共有する場としたい。

(4) 学習指導要領との関わり

【知識及び技能】
(1) ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1・2年)
(3) オ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(4年生)
(1) ケ 詩を朗読している。(6年生)
(3) オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つと気付いている。(6年生)
【思考力・判断力・表現力等】
C 読むこと
(1) イ 場面の様子など、内容の大体を捉えている。(1年生)
(1) カ 詩を読んで、感じたことや分かったことを共有している。(2年生)
(1) カ 詩を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。(4年生)
(1) カ 詩を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(6年生)

(5) 児童の実態・本時の目標・支援の手立て・評価規準

	本時のねらい	支援の手立て
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・のはらうたの住民になりきって、詩を音読することができる。 ・本時の課題に集中して取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読の工夫の視点を提示する。 ・活動に集中できるよう、ICT機器を使用する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・のはらうたの住民になりきって、詩を音読することができる。 ・情緒のコントロールをしながら活動に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読の工夫の視点を提示する。 ・情緒が不安定になったらクールダウンを促す。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の響きやリズムを意識し、工夫して音読することができる。 ・本時の課題に集中して取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読の工夫の視点を提示する。 ・活動の流れやタイマーの設置など視覚的な支援をする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りのときに、選んだ理由を伝えることができる。 ・詩の紹介方法を自分で選んで発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表時に語型を提示する。 ・ICTで作った資料を提示できるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りのときに、選んだ理由を伝えることができる。 ・仲間の発表を聞き、簡単な感想を言うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表時の語型や感想を言うときの視点について提示する。 ・感想が言えるように簡単に意思表示できるツールを用意する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・詩を紹介するときに、選んだ理由を伝えることができる。 ・集中して学習できる方法を選んで学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表時の語型や感想を言うときの視点について提示する。 ・周りの様子が気になるときは、パーテーションを設置する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・詩を読んで感じたことを生かした朗読をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詩を読んで感じたことに合う読み方を選べるように、読み方の工夫の視点を提示する。

3. 研究との関わり

自ら学び合い、考えを深める子の育成
 ～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して～

研究内容1 自己調整しながら学ぶことを促す単元構成

【本時に目指す「自己調整しながら学び進める」姿】

- ・音読や朗読の工夫の視点をもとに、自分で決めた目標に向かって活動している姿。
- ・自分に合った学習の仕方を選択し、粘り強く課題に取り組む姿。

【仮説】

自己選択・自己決定を行う活動を重ねていくことで、自分の目標に向かって粘り強く学習に取り組む、楽しみながら国語の力を身に付けることができるだろう。

【達成のための手立て】

- 工夫① 学習の見通しをもつことができる視覚支援。
- 工夫② 児童の実態に合ったためあてや学習方法の選択。
- 工夫③ 自己調整をしながら安心して活動に取り組める場の設定。

4. 単元指導計画

次	時	単元の見通し
1	1	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の詩を音読して、感想を話す。 学習課題を確認し、学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【単元を貫く課題】 好きな詩を楽しく読んだり、仲間に紹介したりしよう。</p> </div>
2	2	<ul style="list-style-type: none"> 本の中から自分の好きな詩を選んで音読する。(1、2年) テーマを決めて、詩を集める。(4年生) 選んだ詩の内容を読み取り、感想を話す。(6年生)
	3	<p>本時</p> <ul style="list-style-type: none"> 詩に合った読み方を見つけるために、いろいろな読み方を試して詩を楽しむ。(1、2年生) テーマに沿った詩を集める。(4年生) 複数の読み方を試し自分の感じ方に合った朗読の仕方を見つける。(6年生)
3	4	<ul style="list-style-type: none"> 自分が選んだ詩を紹介したり、仲間が選んだ詩を読んだりして、感想を伝え合う。

5. 本時の目標 (3/4)

- ・いろいろな読み方を試す活動を通して、自分が感じたことが伝わる音読や朗読の仕方を見つけることができる。(1、2、6年生)
- ・詩集に載せたい詩を選ぶ活動を通して、選んだ理由を伝えることができる。(4年生)

6. 本時の展開

	ねらい	学習過程	研究との関わり
つかむ	<p>前時の活動を振り返ることで、本時の学習の見通しをもつことができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 前時を振り返り、本時の活動内容を確認する。 本時の課題と本時の出口を確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自分の詩にぴったりな読み方を見つけよう。(1、2、6年生) 自分の詩集にのせたい詩を見つけよう。(4年生)</p> </div>	<p>【研究内容1】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習を振り返ることができる資料を提示する。 <p>【研究内容1】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音読の工夫の手がかりになるキーワードを提示し、めあてが立てられるようにする。 録音コーナーを設置することで、集中して学習に取り組めるようにする。
ふかめる	<p>自分のめあてに向かって粘り強く課題に取り組むことができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 自分のめあてを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・元気よく読みたい。 ・かっこよく読みたい。 ・いろいろな読み方をしてみたい。 自分のめあてに向けて詩を読んだり、詩を探したりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・読み方の速さ、声の大きさ、間の取り方、リズムなどを変えて詩を読む。 ・録音して自分で聞いたり、仲間に聞いてもらったりして、いろいろな読み方を試す。 ・仲間の読み方で気付いたことを助言する。 本時の活動を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・今日のはらうたの〇〇になって元気よく読みました。 ・ぼくは、言葉のリズムが分かるように読みました。 ・ぼくは、この詩は力強い詩だと思ったので、強い声で読みました。 ・〇〇さんの選んだ詩は面白いな。 	<p>【研究内容2】</p> <ul style="list-style-type: none"> 仲間関係や学習内容を考慮したペアやグループ活動を取り入れ、仲間の意見を参考にして自分の活動に生かせるようにする。 <p>【研究内容1】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に合わせて、「みんなの前で話す」「録音した音声で発表する」、「プレゼンのようにして発表する」など、発表の方法を選択できるようにする。 <p>【研究内容3】</p> <ul style="list-style-type: none"> シールやハンコ等を使って認めるようにすることで、発表したことに対する価値付けが視覚的に分かるようにする。
まとめる	<p>自分が学んだことを学級の仲間に伝えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おもしろい詩をたくさん探そう。 ・動物の詩を探したいな。 ・リズムがおもしろい詩を探そう。 ・図書館の本や教師が準備した詩の本の中から自分のテーマに合った詩を探す。 ・探したページに付箋を貼る。 ・簡単な感想を書いて付箋を貼る。 ・ぼくは〇〇というテーマで詩を探しました。見つけた詩を一つ紹介します。この詩は〇〇というところが面白いので選びました。 ・ぼくは、リズムがおもしろい詩をえらびました。この部分を見てください。 ・〇〇さんの詩集を読んでみたいな。 	<p>【評価規準】(思・判・表)</p> <p>1年生:のはらうたの住民になりきって音読している。</p> <p>2年生:詩に合わせて音読の仕方を工夫している。</p> <p>4年生:詩について、選んだ理由を伝えている。</p> <p>6年生:詩から感じたことが伝わるような読み方の工夫をしている。</p>

第1学年 算数科学習指導案

1. 単元名 「ひきざん」

2. 指導の立場

(1) 単元について

児童はこれまでに10以下の数から1位数を引く減法や、3つの数の減法 $15-5$ や $15-3$ のような10いくつから1位数を引く、繰り下がりのない減法を学習してきた。本単元では、繰り下がりのある減法の計算方法を学習していく。ここでは、最初に被減数の10のまとまりから減数を引き、次に残りの数をたす減加法と、最初に被減数の一の位を引いて、次に10のまとまりから残りの数を引く減々法を扱う。どちらの方法で計算するとよいのか児童自身が選択し、繰り返し計算していく中で、計算の仕方を習熟していく。また、自分の考えをブロック操作や図などを用いて計算の仕方を説明する活動を取り入れることで問題解決の過程を共有し、数の見方を工夫して既習の計算に帰着して解決する力を育みたい。

(2) 本単元で働かせる数学的な見方・考え方

- ・「10といくつ」という数の見方に着目し、11～18から1位数を引く繰り下がりのある減法計算の仕方を考える。
- ・ブロック操作と図を関連付けることで、ブロックの操作をしなくても数の操作をイメージして計算ができるようにする。

(3) 本時について

本時では、どこから減数を引いていけばよいのかを考えていく。これまでに学習した減加法で計算する児童が多いと考えられるが、ここでは被減数の一の位から引いていく減々法という計算方法について中心的に取り上げていく。減々法の考え方をしている児童の考えを広め、他の児童にも、このような考え方ができることに気付かせたい。

学習を進めるにあたって、減々法という計算方法が児童の中から出てこなかった場合は被減数を10と2に分け、どこから3をとるとよいか考えさせ、ばらから引く方法を引き出すようにする。

ブロック操作を通して、減加法と減々法を比較し、どちらも「10といくつ」という数の見方に着目している点は同じであるが、10からまとめて引く点と、減数を分けてばらから順に引いている点が違うことに気付かせる。

また、ブロックや図、さくらんぼ計算などを用いて、自分の考えをもったり、自分の考えを表現したりする場を設け、ペア学習や学級全体での活動を通して自分の考えを話したり、

仲間の考えを聞いたりする活動を通して、考えを深めていきたい。

(4) 学習指導要領との関わり

A(2) 加法、減法

ア【知識・技能】

- (ア) 加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場面について知ること。
- (イ) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。
- (ウ) 1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできること。

イ【思考力・判断力・表現力等】

- (ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

(5) 単元の目標と評価規準

11～18から1位数を引く繰り下がりのある減法計算の仕方を理解し、計算の仕方を操作や図を用いて考える力を養うとともに、計算の仕方を操作や図を用いて考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体的に学習に取り組む態度】
11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算が、「10といくつ」という数の見方を基にしてできることを理解し、その計算を確実にしている。	数の構成に着目し、11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を、操作や図を用いて考え、表現している。	11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方について、10といくつという数の見方や操作、図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

3. 研究との関わり

自ら学び合い、考えを深める子の育成
～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して～

研究内容1 自己調整しながら学ぶことを促す単元構成

【本時に目指す「考えの深まり」のある姿】

減々法の計算の仕方を、ブロック操作をしながら式と関連付けて説明する姿。

【仮説】

既習学習の活用方法を式や言葉等を関連付けて、説明し合う活動を通して、ブロック操作のよさに気付き、全員の児童が問題解決できるであろう。

【達成のための手立て】

- ① 既習の「10から3をひく」考えに触れながらブロック操作をしてみることで、ばらからとる方法もあることに気付けるようにする。
- ② 自己調整しながら考えられるように、ペア学習を行う。
- ③ 説明することが苦手な児童には、ヒントになる話型のカードを用意し、自分の力で減々法の計算の仕方を説明できるような場を設定する。

4. 単元指導計画

時	単元の見直し
1	「10といくつ」という数の見方に着目し、13-9の計算の仕方を考える。
2	減数が9の場合の計算の仕方(減加法)を理解する。
3	「10といくつ」という数の見方に着目し、減数が8や7の場合の計算の仕方(減加法)を考える。
4	減数が9~5の場合の計算練習や文章題が確実にできる。
5(本時)	「10といくつ」という数の見方に着目し、12-3の計算の仕方(減々法)を考える。
6	11~18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の練習や文章題を減加法か減々法のどちらかを選んでできる。
7~9	計算カードを使って、11~18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算を習熟する。
10	学習内容の定着を確認する。

5. 本時の目標 (5/10)

11~18から1位数を引く繰り下がりのある減法計算について、ブロック操作で考える活動を通して、減々法でも計算できることに気づき、計算の仕方を説明することができる。

6. 本時の展開

	ねらい	学習過程	研究との関わり								
つかむ	問題を捉える。	1. 本時の学習の見直しをもつ。 <問題> おかしが12こあります。 3こたべると、のこりは なんこですか。	<研究内容①> ・問題を把握し、前時までの学習内容の相違点を仲間と確かめ合うことで、既習事項の言葉等を使いながら課題化を行うようにする。 ・式から、ばらだけでは引けないことに気づき、10のまとまりから引くことができると考えることができるようにする。 ・ブロック、丸図、さくらんぼ計算の方法から1つ選択し、計算の仕方を考える。								
	考え方の見直しをもつ。	・のこりを求めるからひき算。 ・式は12-3。 2. 本時の課題を確かめる。 <課題> 12-3のけいさんのしかたを かんがえよう。 ・ブロックを使うとできそう。 3. 個人追究を行い、自分の考えをまとめる。	<研究内容②> ・どのような順序で計算したのかを分かりやすくするために、「はじめに」「つぎに」「さいごに」などの順序を表す言葉を使って説明をする。 ・ペア交流及び全体交流では、考え方の共通点と相違点に着目することで2つの考え方のポイントを児童の言葉から引き出し、確かめる。 ・ブロック操作が計算方法の基本の考え方であるため、全員で確認しながらブロック操作を行う。								
深める	自分の考えを出し合いながら仲間と考え、よりよい答えを導き出す。	<table border="1" style="display: inline-table; margin-right: 20px;"> <tr><td>① 12は10と2。</td></tr> <tr><td>② 10のまとまりから3をひくと7。</td></tr> <tr><td>③ 7と2で9。 しき $12-3=10-3+2$ $=7+2$ $=9$</td></tr> <tr><td>こたえ9こ</td></tr> </table> <table border="1" style="display: inline-table;"> <tr><td>① 3を2と1にわける。</td></tr> <tr><td>② 12から2をひく。</td></tr> <tr><td>③ 10から1をひく。 しき $12-3=12-2-1$ $=10-1$ $=9$</td></tr> <tr><td>こたえ9こ</td></tr> </table>	① 12は10と2。	② 10のまとまりから3をひくと7。	③ 7と2で9。 しき $12-3=10-3+2$ $=7+2$ $=9$	こたえ9こ	① 3を2と1にわける。	② 12から2をひく。	③ 10から1をひく。 しき $12-3=12-2-1$ $=10-1$ $=9$	こたえ9こ	
	① 12は10と2。										
② 10のまとまりから3をひくと7。											
③ 7と2で9。 しき $12-3=10-3+2$ $=7+2$ $=9$											
こたえ9こ											
① 3を2と1にわける。											
② 12から2をひく。											
③ 10から1をひく。 しき $12-3=12-2-1$ $=10-1$ $=9$											
こたえ9こ											
まとめる	2つの考え方のそれぞれのポイントと共通点をまとめ、練習問題に取り組む。	4. ペア交流を行い、考えを伝えあう。 5. 全体交流を行い、学習を深める。 ・どちらも10と2に分けて考えている。 ・10からひくやり方と、ばらからひくやり方がある。 ・やり方はそれぞれ違うけれど、「10といくつ」をもとにして考えている。 6. 本時の学習をまとめる。 ばらから一度に引けない引き算は、まず、ばらから引いて、のこりを10から引くとよい。 7. 練習問題を解き、学習内容の一般化を図る。 ・新しく見つけた、ばらから引く方法で計算してみよう。 8. 本時を振り返る。 ・引き算は、10のまとまりから引く方法と、ばらから引く方法がある。 ・「10といくつ」のとき、「いくつ」から引く方法があることがわかった。	【評価規準】(思・判・表) 「10といくつ」という数の見方に着目して、減々法の計算の仕方を理解し、ブロック操作や図、言葉などで説明している。 (ノート・発言)								

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名 せつめいする文しょうをよもう

教材名 じどう車くらべ

2 指導の立場

(1) 単元について

本単元「じどう車くらべ」は、「つぼみ」「うみのかくれんぼ」に次ぐ基本的な構成の説明文である。

「じどう車くらべ」は、4つの段落からなり、第1段落で話題と2つの問題提示、第2～4段落で3種類の自動車の「しごと」と「つくり」について説明している。そのため、児童が事柄の順序を考えながら読み進めるのに適した教材である。

児童は、「問い」と「答え」の関係を基に、文末表現に注意して問いの文と答えの文を読むことができるようになってきた。本単元で児童に、「問い」に対する「答え」の関係に注意しながら、それぞれの自動車の説明について内容の大体を読み取る力を身に付けることをねらいとする。そして、繰り返し出てくる接続語や文末表現に注目することで、説明文の基本的な構成や文型を理解することができるようにしたい。また、はしご車のじどう車メモに取り組むことを通して、「しごと」と「つくり」の簡単な組み立てや接続語を用いてつながりのある説明文を書くことができるようになることを考える。書く場を設けることで、「しごと」と「つくり」の関係を捉え、情報を整理したり、目的に応じた必要な語や文章を選び出したりする力を伸ばしていく。

(2) 本単元で働かせる国語的な見方・考え方

- ・繰り返し出てくる接続語や文末表現に着目し、文章構成を捉える。
- ・共通点や相違点に着目し、比べながら読むことで文章の内容を正しく捉える。

(3) 本時について

前時までに、バスや乗用車、トラック、クレーン車の3つの自動車の具体例から、それぞれの「しごと」と「つくり」を読み取る活動を行い、必要な語や文を選び出し、まとめる力を育ててきた。

本時は、今までの学習を生かして、はしご車の「しごと」と「つくり」を見付け、「じどう車メモ」にまとめるという学習である。資料の中から「しごと」と「つくり」に必要な語や文章を詳しくする言葉や理由を表す言葉に着目しながら、はしご車の「しごと」に合った「つくり」を見付ける。また学び方は、個別で行ったり複数の仲間と行ったりと自分に適した学習方法を選択する形で進め、自己調整しながら学び進めていくことをねらう。さらに、チャレンジとして「その『つくり』には、どんなよいことがあるか」という問いを設定することで、自分が選んだ「つくり」について、根拠をもって説明する。

(4) 学習指導要領との関わり

【知識及び技能】

- (1) ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。
 ウ 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。
 エ 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。
 オ 身近なことを表す語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにする。
 カ 文の中における主語と述語との関係に気付くこと。
- (2) ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。

【思考力・判断力・表現力等】

- C 読むこと
 (1) ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。
 ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。

(5) 単元の目標と評価規準

- ◎時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思C(1)ア)
 ○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知(2)ア)
 ○文章の中の重要な語や文を選び出すことができる。(思C(1)ウ)

【知識及び技能】	【思考力・判断力・表現力】	【学びに向かう力】
・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 ・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。	・進んで説明における順序を考えながら読み、自分が説明するときにかきたいことを見つけながら読もうとしている。

3 研究との関わり

自ら学び合い、考えを深める子の育成
 ～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して～

研究内容1 自己調整しながら学ぶことを促す単元構成

【本時に目指す「自己調整しながら学ぶ」姿】

自分に適した学習方法を選択し、必要な語や文を選び出す姿。

【仮説】

「個別」、「ペア」、「三人・四人グループ」から、自分に適した学習方法を選択することを通して、進度に応じた学び方ができ、主体的に学びに向かうことができるであろう。

【達成のための手立て】

- 工夫① 本時までに学習方法を選択するやり方を繰り返して行う。
 工夫② 自己のペースで行える学習プリントを活用する。
 工夫③ 児童一人一人の学習進度に応じて取り組めるチャレンジ課題を設定する。

4 単元指導計画

次	時	単元の見通し 見方・考え方
1	1	<ul style="list-style-type: none"> 知っている自動車について出し合う。 自動車の「しごと」と「つくり」が説明されていることを確かめ、それらをまとめるという単元を貫く学習課題を設定する。
2	2	<ul style="list-style-type: none"> 問いの文や出てきた自動車を確かめ、文章全体の構成と、内容の大体を捉える。
	3	<ul style="list-style-type: none"> バスや乗用車の「しごと」と「つくり」を読み取り、「じどう車メモ」にまとめる。
	4	<ul style="list-style-type: none"> トラックの「しごと」と「つくり」を読み取り、「じどう車メモ」にまとめる。
3	5	<ul style="list-style-type: none"> クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取り、「じどう車メモ」にまとめる。
	6【本時】	<ul style="list-style-type: none"> 「はしご車」の「しごと」と「つくり」を読み取り、「じどう車メモ」にまとめる。
4	7	<ul style="list-style-type: none"> どんな順序で自動車が登場しているかを話し合う。
以下 複合単元「じどう車ずかんをつくらう」		
次	時	単元の見通し 見方・考え方
1	1	<ul style="list-style-type: none"> 「じどう車ずかん」の作り方を確かめ、学習の見通しをもつ。 図鑑に書く内容について話す。
2	2	<ul style="list-style-type: none"> 本や図鑑などを使って、紹介したい自動車を決める。 自動車の「しごと」について調べ、じどう車メモにまとめる。
	3	<ul style="list-style-type: none"> 自動車の「つくり」について調べ、まとめる。 前時にまとめた「しごと」にあった「つくり」を選択し、メモにまとめる。
	4	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習を基に、「じどう車しようかいカード」を書く。 順序などに間違いがないか確認し、カードを完成させる。
3	6	「じどう車しようかいカード」を読み合い、感想を伝え合う。

5 本時の目標 (6/7)

はしご車の「しごと」にあった「つくり」を選び出す活動を通して、「しごと」のために「つくり」があることに気づき、詳しくする言葉を使って自動車メモにまとめることができる。

6 本時の展開

	ねらい	学習活動	研究との関わり					
つかむ	これまでの学習を想起し、本時の学習に見通しをもつ。	<p>1. 前時までの学習を振り返り、本時の課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「問い① どんなしごとをしていますか。」「問い② どんなつくりになっていますか。」の2つの問いがあった。 「バスやじょうよう車」「トラック」「クレーン車」の「しごと」と「つくり」を見付けることができた。 自動車の説明に「そのために」という言葉が使われており、「しごと」「そのために」「つくり」の順に書かれている。 	<p>【研究内容1】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「問い」と、3つの自動車の「しごと」と「つくり」について、学習を掲示物で確認し、本時の学習の見通しをもてるようにする。 					
	はしご車の「つくり」を絵や文章から読み取ることができる。	<p>はしご車には、どんな「しごと」と「つくり」があるのだろう。</p> <p>2. はしご車の「しごと」にあった「つくり」を読み取り、じどう車メモにまとめる。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>しごと</td> <td>たかいところの火をけしたり、にげおくれた人をたすけたりするしごとをしています。</td> </tr> </table> <p>そのために</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>つくり①</td> <td>たかいところにいる人をたすけるために、長くのびるはしごがついています。</td> </tr> <tr> <td>つくり②</td> <td>はしごをのぼしてもたおれないように、ささえるあしがついています。</td> </tr> </table>	しごと	たかいところの火をけしたり、にげおくれた人をたすけたりするしごとをしています。	つくり①	たかいところにいる人をたすけるために、長くのびるはしごがついています。	つくり②	はしごをのぼしてもたおれないように、ささえるあしがついています。
しごと	たかいところの火をけしたり、にげおくれた人をたすけたりするしごとをしています。							
つくり①	たかいところにいる人をたすけるために、長くのびるはしごがついています。							
つくり②	はしごをのぼしてもたおれないように、ささえるあしがついています。							
深める	さらに「つくり」について主体的に追究することができる。	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>チャレンジ①</td> <td>その「つくり」には、どんなよいことがあるのか。</td> </tr> <tr> <td>チャレンジ②</td> <td>じどう車メモを文しょうにしましょう。</td> </tr> </table> <p>3. 学習の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> はしご車の「しごと」と「つくり」を自分で見付けることができた。 1人では難しかったけど、仲間と協力して「しごと」と「つくり」を見付けることができた。 最初は、1人で頑張ったけど、「つくり」を見付けるのが難しかったからペアで協力したよ。 	チャレンジ①	その「つくり」には、どんなよいことがあるのか。	チャレンジ②	じどう車メモを文しょうにしましょう。	<p>【研究内容3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 三・四人グループで学習課題に対して自分が出来たことを話す。 	
	チャレンジ①	その「つくり」には、どんなよいことがあるのか。						
チャレンジ②	じどう車メモを文しょうにしましょう。							
まとめる	本時の学習を通して、次単元の見通しをもつことができる。	<p>4. 次単元の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> なぜ「バスやじょうよう車」「トラック」「はしご車」「クレーン車」の順番に説明されているのだろうか。 	<p>【評価規準】(思・判・表)</p> <p>資料の中からはしご車の「しごと」と「つくり」に必要な語や文を選び出し、まとめている。(ワークシート)</p>					

第2学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 せつめいのしかたに気をつけて読み、それをいかして書こう
 教材名 紙コップ花火の作り方 おもちゃの作り方をせつめいしよう

2 指導の立場

(1) 単元について

本単元は、前半で「紙コップ花火の作り方」を読み、読み手に分かりやすくおもちゃの作り方を伝える工夫を学習し、後半でその学びを生かしておもちゃの作り方を説明する文章を書くという複合単元である。

順序を表す言葉に着目して文章を読み、言葉のよさに気付いて、活用できる力を育みたい。おもちゃの作り方を分かりやすく読み手に伝える筆者の工夫に気付くためには、筆者の目線に立って読むことが大切だと考える。筆者の工夫として、①内容をまとまりごとに書いていること②順序を表す言葉や様子を表す言葉、具体的な数字を使って文章を構成していることに気付かせたい。また、単元終末には自分でおもちゃの作り方を説明する文章を書くという目的意識をもち、筆者の目線に立って文章を読むことで、読み手に分かりやすく説明するための言葉に着目したり、順序立てて書くことの必要性に気付いたりすることができると思う。

(2) 本単元で働かせる国語的な見方・考え方

- ・事柄の順序を表す言葉に着目し、内容の大体を捉える。
- ・読み手に分かりやすく伝えるための筆者の工夫をもとにして、文章を書く。

(3) 本時について

単元出口の言語活動「紙コップ花火の作り方で見つけた説明の工夫を使っておもちゃの作り方を分かりやすく説明しよう」では、読み手に分かりやすく説明するための筆者の工夫を基にして、自分で決めたおもちゃの作り方の説明文を書く。そこで本時は、読み手に理解してもらいやすくするために、「順序を表す言葉や、様子を表す言葉、具体的な数字といった読み手に分かりやすく伝える言葉を使って文章を構成する」という筆者の工夫を捉えていく。その際、順序や様子を表す言葉がなかった場合や、曖昧に表現した場合と比較することで、筆者が順序を表す言葉や、様子を表す言葉を使った意図や工夫するよさに気付かせたい。

(4) 学習指導要領との関わり

【知識及び技能】

- (1) オ 身近なことを表す語句の量を増やし、語や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすること。
 (2) オ 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。

【思考力・判断力・表現力等】

B 書くこと

- (1) ウ 時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えること。

C 読むこと

- (1) ア 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。
 ウ 文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもつこと。

(5) 単元の目標と評価規準

- ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知(2)ア)
 ◎語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思B(1)ウ)
 ○身近なことを表す語句の量を増し、語や文章の中で使うことで語彙を豊かにすることができる。(知(1)オ)
 ○時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思C(1)ア)

【知識及び技能】	【思考力・判断力・表現力】	【学びに向かう力】
<ul style="list-style-type: none"> ・身近なことを表す語句の量を増し、語や文章の中で使うことで語彙を豊かにしている。 ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 ・「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えている。 ・「読むこと」において文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで文章の中の語や文を選び出したり、事柄の順序に沿って分かりやすく伝える書き表し方を工夫したりし、学習の見通しをもっておもちゃの作り方を説明する文章を書くとしている。

3 研究との関わり

自ら学び合い、考えを深める子の育成
 ～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して～

研究内容2 考えを深める交流活動の設定

【本時に目指す「協働的に学ぶ」姿】

班の仲間と「読み手に分かりやすく説明するための筆者の工夫のよさ」について話し合い、自分の説明文で使いたい工夫を選択する姿。

【仮説】

文章を分かりやすく伝える筆者の工夫の中で、自分が使いたい工夫を選び、その理由についてグループで話し合えば、順序や様子を表す言葉に着目して読み、筆者の工夫のよさに気付くことができる。

【達成のための手立て】

- 工夫① 「なぜその工夫を選択したのか」「工夫をすると分かりやすいと感じるのはどうしてか」と問い、工夫の意図やよさを考えられるようにすること。
 工夫② 筆者の工夫を明確にして表に整理し、児童が使いたい工夫を選択できるようにすること。
 工夫③ 「筆者の工夫のよさ」と「本当に工夫を使えそうか」を基に子どもたちに判断を問い、立ち止まって考える場面をつくること。

4 単元指導計画

次	時	単元の見通し
第1次	1	これまでに作ったことのあるおもちゃについて話し合う。
	2	学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。紙コップ花火を作る。 【単元を貫く言語活動】 筆者の説明文にかくれているひみつを生かして、おもちゃ作りの説明書を書く。
	3	
第2次	4	紙コップ花火を作るときに注目した言葉や文について交流する。
	5	それぞれの写真が文章のどの部分を指しているかを考える。
	6 本時	分かりやすく説明するための筆者の工夫について交流する。
第3次	7	説明するおもちゃを決め、作る。
	8	説明の順序を考え、文章を書く。
	9	
	10	
第4次	11	書いた文章を読み合い、感想を交流する。
	12	仲間の書いた説明を読んで、おもちゃを作る。
	13	アドバイスし合い、よりよい説明をつくる。
	14	2組と交流し、振り返る。

5 本時の目標 (6/13)

読み手に分かりやすく説明するための筆者の工夫に着目して読むことを通して、「順序」「様子」を表す言葉を使うよさに気づき、真似したい工夫のよさを選択することができる。

6 本時の展開

	ねらい	学習活動	研究との関わり												
つかむ	前時の学習内容を想起し、本時の見通しをもつことができる。	<p>1. 前時の学習を振り返り、工夫を確かめ、使いたい工夫を考える。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ひっしやのくふう</th> <th>つかってみたい</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①まともりごとにも書いている。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>②しゃしんをつかっている。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③じゅんじよをあらわすことばをつかっている。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>④ようすをあらわすことばをつかっている。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤「～しましょう」とよびかけている。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 本時のめあてを確認する。 《課題》ひっしやはなぜたぐさんのくふうをして説明しているのだろう。</p> <p>3. 筆者の工夫のひみつを考え、話し合う。(個人→グループ) ・「まず」「つぎに」という言葉があると、つくる順番が分かりやすいね。 ・言葉だけで分かりにくいところに写真があると作り方が分かりやすいね。 ・様子を表す言葉が無かったら、作る人によって、バラバラの紙コップ花火になってしまうよ。</p> <p>4. グループごとの話し合いのまとめを全体で交流する。 ・「まず」「つぎに」という言葉があると、作る人が迷わずに順番に作れます。 ・「センチメートル」で詳しく書いてあると、分かりやすい説明文になります。</p> <p>5. まとめ 《まとめ》ひっしやは、だれが読んでも分かりやすく、同じおもちゃをつくれるようにするためにたぐさんのくふうをした。</p> <p>6. 自分が使ってみよう工夫を選ぶ ・「まず」「つぎに」というような順序を表す言葉を使って説明を書きたいです。なぜかという、読んだときに、どの順番で作るとよいかははっきりして、分かりやすいからです。 ・「まず」「つぎに」だけでは、分かりやすい説明にならないと思ったから、詳しく長さを書きたいです。</p>	ひっしやのくふう	つかってみたい	①まともりごとにも書いている。	○	②しゃしんをつかっている。		③じゅんじよをあらわすことばをつかっている。	○	④ようすをあらわすことばをつかっている。		⑤「～しましょう」とよびかけている。		<p>【研究内容1】 単元を貫く言語活動を示し、筆者の工夫をまねすれば相手に伝わりやすくなることを理解することで、本時の学習の見通しをもてるようにする。</p> <p>【研究内容2】 どのようなよさがあるかに迫る問いかけをすることで、学びの目的を意識して交流に臨めるようにする。</p> <p>【研究内容2】 筆者の工夫を「読み手」と「書き手」の両方の視点から考えられる問いかけをし、工夫のよさを考えられるようにする。</p> <p>【研究内容3】 単元の出口の活動に向けて、自分ならどのような工夫がしたいかとその理由を考える時間をつくる。</p> <p>【評価規準】(思・判・表) 「順序」「様子」を表す言葉を使うよさに気づき、真似したい説明の工夫を選択している。 (発言・記述)</p>
ひっしやのくふう	つかってみたい														
①まともりごとにも書いている。	○														
②しゃしんをつかっている。															
③じゅんじよをあらわすことばをつかっている。	○														
④ようすをあらわすことばをつかっている。															
⑤「～しましょう」とよびかけている。															
深める	グループで話し合い、自分の考えをもつことができる。														
まとめる	全体で交流し、自分の考えを確かめたり、考えを広げたりすることができる。														

第2学年 算数科学習指導案

1. 単元名 九九をつくろう

2. 指導の立場

(1) 単元について

児童は前単元で新しい計算である「かけ算」の意味やそれが用いられる場合、さらに、かけ算の式について学習している。また、2～5の段の乗法九九の構成の学習を通して、「かける数が1増えると、答えはかけられる数だけ増える」というきまりに着目して、乗法の計算の答えを求め、乗法九九を構成してきている。

本単元では、前単元に続いて6の段以降の乗法九九の構成などを学習していくが、乗法九九の構成に際しては、前単元での学習内容を既習事項として活用し、交換法則につながる求め方や分配法則的な見方による求め方を含めた多様な求め方を使って学習を豊かに進めていく。そして、今後の生活や学習に活用しようとする態度も養っていききたい。

(2) 本単元で働かせる数学的な見方・考え方

- ・乗法は、1つ分の大きさ×いくつ分で捉え、全体の大きさを求める。
- ・「乗数が1増えると積は被乗数分増える」という乗法が成り立つ性質や乗法のきまり（交換法則・分配法則）、アレイ図などを活用して乗法九九の構成の仕方を考える。

(3) 本時について

本時は、被乗数、乗数となっていない問題を解いたり、多角的に考えることができる問題を解いたりすることを通して、乗法はいつでも1つ分の大きさ×いくつ分の形で正しく立式し、答えを求めることができるようになることをねらいとする。また、このような問題を解く経験を通して、文章の中の数値の意味を読み取ったり、吟味したりしながら問題を解こうとする態度も養っていききたい。後半は、発展的な問題に取り組むコース、基礎的な学習を振り返るコースを設け、児童自身が自分の学びたいコースを選択できるようにする。どのコースも生活によくある場面をもとに問題を作成することで、今後乗法九九を生活に生かすことができる姿を目指す。問題を解く中で、1人では解くことが難しいと感じた場合は、仲間や教師と協働的に学ぶことで解決できるようにしていく。

(4) 学習指導要領との関わり

A 数と計算 (3) 乗法

ア【知識及び技能】

- (ア) 乗法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。
- (イ) 乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。
- (ウ) 乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解すること。
- (エ) 乗法九九について知り、1位数と1位数との情報の計算が確実にできること。

イ【思考力・判断力・表現力等】

- (ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。
- (イ) 数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと。

(5) 単元の目標と評価規準

乗法の意味について深め、計算の仕方を考えたり乗法に関して成り立つ性質やきまりを見いだしたりする力を養うとともに、計算方法などを数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体的に学習に取り組む態度】
乗法九九の構成の仕方と唱え方を理解し、確実に唱えている。	乗法について成り立つ性質やきまりを用いて、乗法九九の構成の仕方を考え工夫し、表現している。	数学的に表現・処理したことを振り返り、数学的な処理や、乗法について成り立つ性質やきまりを用いることのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

3. 研究との関わり

自ら学び合い、考えを深める子の育成
～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して～

研究内容1 自己調整しながら学ぶことを促す単元構成

【本時に目指す「自己調整しながら学ぶ」姿】

学習内容や誰と学ぶかを自分で選択して取り組み、乗法九九が力として定着する姿。

【仮説】

自分の理解度や興味関心に合う問題に取り組んだり、仲間や教師と共に考えたりすることで、主体的に学ぶ姿勢や粘り強く問題に向き合う力、乗法九九を正しく活用する力が育まれるであろう。

【達成のための手立て】

- ① 児童の実態を把握し、学習状況に合う問題を用意する。
- ② 仲間と共に学び合う場、教師と共に学ぶ場を設定する。
- ③ 終末の振り返りでは、自己の学びを振り返ると共に、次時の学習意欲が高まるような振り返りプリントを用意したり、声をかけたりする。

4. 単元指導計画

時	単元の見通し
1	乗数が1増えると答えが6増えることなどを活用して6の段の九九を構成している。
2	6の段の九九の唱え方を知り、正しく唱えたり、適用したりすることができる。
3・4	7の段
5・6	8の段
7・8	9の段
9	1の段の九九の構成の仕方を理解することができる。
10	九九表からきまりを見つける活動を通して、乗数と積の関係や、乗法の交換法則について理解を深める。
11	乗法のきまりを用いて、簡単な2位数と1位数の乗法の答えの求め方を考え、説明することができる。
12	同じ倍でも基準量が異なると比較量も異なることを考え、「倍」についての理解を深める。
13	乗法九九を総合的に活用して、ものの数の求め方を考え、説明することができる。
14	学習内容の定着を確認する。(△1、2、3、6)
15 (本時)	学習内容の定着を確認する。(△4、5、7)

5. 本時の目標 (15/15)

乗法はいつでも1つ分の大きさやいくつ分に注目することが大切であることに改めて気づき、正しく立式し、計算することができる。

6. 本時の展開

	ねらい	学習過程	研究との関わり
つかむ	1つ分の大きさ×いくつ分で立式することを想起する。	<p>1. 復習し、乗法九九を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦手な乗法九九を1つ唱える。 <p>2. 学習の目的を確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【めあて】1つ分の数といくつ分の数を見つけて、正かくにもんだいをとこう。</div> <p>3. 練習問題 (個人追究→全体交流)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【△4】子どもが6人います。1人にあめを9こずつくばります。あめは何こいりますか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・1つ分×いくつ分だから、かけ算だ。 ・式は、$9 \times 6 = 54$ だと思う。$6 \times 9 = 54$ ではだめなのかな。 ・1人に9こずつだから、1つ分の大きさは9。6人分だから 9×6 だ。 	<p>【研究内容①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文の中の大切なところに印をつけ、着目させることで、1つ分の大きさといくつ分を正確に捉え、解くことができるようにする。 ・ICTを活用し、椅子の並び替えが想像しやすいうようにする。 <p>【研究内容②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間の考えを ICT やノートへの追記を促すことで、自分の考えを再構築できるようにする。
		<p>深める</p> <p>いろいろな形にイスが並べられるが、計算はいくつでも1つ分の大きさ×いくつ分であることを確かめる。</p> <p>コースや相手を選択し、自ら学びを調整し、習熟を図る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【△5】イスを1れつに6こならべて、それを4れつづくりました。イスは何こならべましたか。また、同じイスの数でちがうならべ方があることに気づきました。ならべ方を書きましょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・$6 \times 4 = 24$ 答えは、24こだ。 ・他にも、4×6、3×8、8×3 でイスが並べられそうだ。 <p>4. 自由進度学習</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【どんどんコース】</p> <p>△7 3通りの数え方見つける。発展問題へ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・△7 3×6、6×3、9×2 でもできるな。 ・次は発展問題に取り組んでみよう。 ・自分でも問題を作って、仲間と一緒に解いてみよう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【こつこつコース】</p> <p>△7 2通りの数え方見つける。補充問題へ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・△7、3×6 は分かるけど、他にはどんな数え方があるのかな。他の子に1つ分の数を何で見たか仲間に聞いてみよう。 ・次は補充問題に取り組んでみよう。 ・この問題は難しいな。先生に聞いてみよう。 ・ここからは自分でできそうだ。 </div> </div> <p>5. 本時のまとめと振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習のポイントは、1つ分の数といくつ分の数をたしかめること。 	<p>【研究内容①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コースと相手 (1人・仲間・教師) を選択し、主体的に学習に取り組むことができるようにする。途中変更も可とする。長い時間1人で困っている子には意図的に仲間との協働学習を促す。 <p>【研究内容②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめや振り返りをシートに蓄積していくことで、問題解決において働かせた見方・考え方を振り返りやすしたり、自己の変容を捉えたり、次時の学習意欲を高めたりする。 <p><振り返り項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までのポイントを使った。 ・昨日の自分より「できる!」「分かる!」が増えた。 ・仲間の話を聞いて「なるほど!」と思うことがあった。 ・頑張ったこと、やってみようこと。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準】(知・技)</p> <p>1つ分の大きさ×いくつ分で正しく立式し、計算をしている。(ノート・発言・ロイロノート)</p> </div>
まとめる	見方・考え方をまとめたり、自己の成長を実感したりする。		